



ぶそにのうすいほん
pusonino-usuihon

勇者乾電池

yuusya-kanndennti 2017

DOJIN
R18
成人向け

18歳未満の
購入・閲覧禁止



以下、ヒロインたちのセックス体験談である。





いま、待ってくれ
いきなりはっ

彼には随分と世話になった
経緯は…まあ、たしかにある。
けれど、それとは別に彼の為になんか
できないものかと、これでも一応
懸命に考えたのだ。

そして、私はダーカーとの戦闘に
よって、慢性的に体内に
蓄積されるであろうDF因子を
射精によって排出する方法を
提案した…。



そんなに目一杯
揉むからだっ

言い訳というわけではないが、
我ながら良い案だと思ったのだ。

これでも…。

だが、想定外というか、
彼への奉仕は…とても、とても、
その…気持ちの良いものだった。

ぽっ…
ぽっ…

膣内射精の瞬間の、あの感覚…、
あれは反則だろう。

知識を得て、理解したつもりでいても
彼が私の名を呼びながら
子宮に精液を吐き出した、その一瞬

もう何もかも忘れて彼のモノに
なってしまいたいという思いが
心の中に溢れた。

イってる！
イってるんだっ！
ダメ、動かないでくれっ

それは、ただの奉仕が
セックスに変わった瞬間だと…
うん、まあ…言えるかもしれない。

まっ
あ
♡

ま
ま
ま…

ショッ
ッ

ん
あ
あ
♡♡

ん
ん
ん♡

ん
ん♡

ん
ん♡

こう見えて、身体そのものは地球の子らとなんら変わらないのだ。

受精し、妊娠することも在り得る。

彼の一向に収まらない勃起に一晚中付き合い、とうとう弱音を吐いてしまった頃…。

いつたいていどれだけ溜まっていたんだ！

まっちゃん♡
まっちゃん♡
ん♡

少わかつた、わかつたから
しだけ休ませてくれ

ちゅわん♡
ん♡
ん♡

実はようやく、そのことを…
つまりだな、彼の子を孕んだ可能性を考えた…。

認めよう…シオンコピーである癖に…その、ヒツギ風に言うなら

私はボンコツだ…。

わたしと彼の関係はどうやらアークス内でも公認カップルみたいなの…そんな感じになって、シエラちゃんにも、からかわれるみたいに週何回えっちするの？って、聞かれちゃった…。

当然笑って誤魔化したんだけど、まったく進展していないことが顔にでちゃったのか、

サラがすごく心配な表情でわたしを見てた…。

ええっと、それから2日後くらいだったかな…。



んんんっ！
じゅん…んんんっ、
あふ…じゅんんん

はっ
ちゅ

夜に部屋に呼んでくれたのは…。

一生懸命だったんだよ？

だって、えっちのことなんて知らないもの。
それでも彼に気持ちよくなってもらおうって、
一生懸命がんばったんだから…。



んっ♡

んんんっ
精液…濃いよお

んっ

でも、すぐに無理してるのばれちゃった…。

好きって気持ちばかり先走って
痛いとか怖いとか、頭の中が
ぐちゃぐちゃになって

えっちしながら
わたし、泣いちゃったの…。

お願い、顔見ないでえー！
嫌われちゃうっ
えっちな子だっと思って思われちゃうっ

んんん
んんん

んんん

んんん

…情けないなあ、わたし。
いつも誰かに心配ばかりかけちゃう。

けどね、彼が耳元で「大丈夫だよ」って
囁いてくれて…

そしたら急に、えっちな気持ちが
ぐわ〜っ、溢れてきたの。

んんん
んんん

どうかわたしに
大好きなあなたに
赤ちゃんを孕ませて
下さい…！

その後は、その…もう、抑えがきかなく
なっちゃったというが、

はしたないって思いつつも
自分からおねだりしたり、とか…。

「…かな？」

お、おおお…お話しはこれでおしまいだよっ！
お願いだから、もう聞かないでえ…。

キーン♡

セクッ！
セクッ…

うお…

オレとセンパイが恋人同士になるなんてこと
星がひっくり返ってもありえない。

だいたい、オレみたいな男女
好きだっていうヤツいるわけないだろう？

当たり前じゃないか。

センパイの前では女の子らしくしようって
努力したって、あるわけないんだ。

絶対に…。

しゅん♡

は…

イって、センパイ
オレのお口に
ザーメン吐き出さじつ



「…」気持ちいいの？
あむ…ちゅんんん？

ぐん♡

平気だよ
センパイがイクまで
ずっとこうしてあげる

だって…
髪型を変えたオレをはじめて見たときの、
センパイのその顔を見て、そんなことは
すぐにわかったから…。

期待なんてするわけない…。

そんなの余計に哀しくなるだけじゃないか。

けど…あれ？なんでオレ、
センパイとえっちらしてんた…。

しゅん♡

センプイ好みの女の子から
なれるようにガンパルから
オレをお嫁さんにして！

好き…センプイ
大好き…

えっと、なんでだっけ…？
えっと…。



オレの身勝手な告白を聞いた
センプイは…そうだ。

オレと同じことを言ったんだ。

自分が好かれていたなんて
想像もしなかった…、って。

は…
は…



イクの気持ち
なるんじゅー
なく

赤ちゃんで
思っただけ
でできるっ
て

滅茶苦茶だよな……。

常識的に考えれば、手順ってものがあるだろう。

いきなり裸で好きですって言って
ダメだったらどうするつもり
だったんだよ、オレ。

ムクムク♡
ムクムク♡

だから、もう一度ちゃんと言わせて下さい。

大好きです…センパイ。
いつか、多分、かなり…えっと、
すごく時間がかかるかもだけど、

オレ、センパイに似合う女のひとになれるよう
努力します。

だから、ずっと一緒にいて下さい……。

HARRIET

わたくしとガーディアンの関係…ですか？

それは、なんと申しますか…その…

そう！利害関係ですっ！
ええ、そうなんです！
けしてただれた関係ではなくてですね…。

すみません。嘘をつきました…。



このように濃いザーメンを
射精されたら
確実に孕んでしまいますっ

いつでもどんな場所でも
お相手しますから
どうか…どうか
中出しだけは…っ

Shippu ♡



どうぞ、遠慮なく
わたくしの顔に
ぶっかけてくださーいっ

なにぶん、騎士団でも男性と混じって剣を振るうような
無骨な女ですから、性への興味はあっても
誰もそのように見てはくれません。

ですが、姐とはいえ、これでも女なのです…。

卑しい目で見られて、性欲処理のために
殿方にこの身体を捧げることを
夢見たりもするのです…。

お願いですっ！
何でもしますから
外へ！外へ射精してええっ！

んおおお
……♡

…ですから、
わたくしたちの為に、その絶大な力を
行使してくださる、ガーディアンに

こう、尋ねました。

「差し出せるものはわたくしの身体だけ…」っ。

男性がその言葉をどう受け取るのかということは
ええ…わかっているつもりでした。

孕むっっっっ！
孕みますっっっ！
妊娠いやあああ！

ですが、本当に毎夜…あ、いえ、
所構わず…が適切でしょうか、
セックスを求められるとは
思いもありませんでした。

その背徳感ときたら…。

んおおお♡

ゴッ
ゴッ

HARRIET



はじめの頃は、フェラチオやパイズリで満足していただいていたはずが、

実はその度、わたくしがイってしまっていたことを知られ…。

そこからはもう性奴隷のように扱っていただきました。

もう、「これ以上犯さないで…」

もう…許してください…

あなた様のものに
なります…
お願い…

事あるごとに
わたくしはあえて、彼に懇願するのです。

「孕んでしまいます。外へ、膣外へ
射精してください」と。

ガーディアンがより性器をたぎらせて
わたくしに襲い掛かるとわかったうえで。

このまま永遠に彼の肉奴隷として
生きていきたいと、実はこの頃
本気で思い始めているのだということ

…おほん、な、内緒ですよ？

おほん…

だって、あれ、媚薬みたいな息も吐くんですよ！
助けてもらって、がまんできなくなって…。
「えっちしてください」って、言っちゃいました。
恐縮です…。

え？え？え？
入れるのはナシって
言ったじゃないですかあ！

その後、あの人はわたしを心配して
部屋に連れ帰ってくれたんですけど、
シャワールームで粘液を洗い流していたら
思い出してしまって…。

…オナニーしちゃいました。

だって、だって仕方ないじゃないですかっ！
ずっと憧れだったひとに
えっちな姿を見られて、
いっぱいえっちしてもらえて、

すぐに余韻が抜けるわけじゃないじゃないですか…。
恐縮…です。

ぐちゃちゃあ…

と、は、あ、

ピュルルルル

当然、そんなのすぐに見つけて
すごい...すごい、えっちされました。

2回...えっと、4回、5回?

ド
ッ
♡♡

ん
あ
あ
♡♡

ペットに連れて行かれてからも
3回...もう、わかんないくらい
いっぱいえっちされました。

子宮口に押し付けて
射精しないで下さい

ん
ん
ん
ん

ヒ
ク
ッ
ッ

え?生理ですか??
あれ。
そういえば、まだ...。
あ、あれ??

また射精してるっつ!
もう精子入りません
いっぱいですっ
お腹苦しいのおおっ!



これ、そんなに
気持ちいいんですか？

わたしの悩みを聞いてくれませんか？

その…ですね、
とっても言い辛いことなんです、

リーダーがわたしと話すとき
いつも…
お、おち…お、おちんちんを
勃起させている…こと、なんです。



こんなにたくさん…

え？もっとですか？
リーダーえっち過ぎです

いいえ！迷惑じゃないですっ！
健康な男性なら当然のことだとい
うくらいの知識は、ありますから…。
でも、恥ずかしい…です。
だって、だって！
びくんびくんって、ずっとスポンを
押し上げてるのわかるから…。

ま、待つってリーダーに
リーダー……

んっ♡

気持ちよくするだけ
って約束……！
これ、赤ちゃん作るえっち
じゃないですかっ！

んっ♡

んっ♡

んっ♡

ある時、わたしの方からリーダーに
「おっはいで挟むくらいなら」……って
言ったんです。

それでお仕舞ならよかったです、
何回射精してもリーダーの
おちんちは全然萎えなくて、

その日のうちに、初えっち……しちゃいました。

中出しはダメってちゃんと言ったのに、
射精する瞬間、リーダー……
わたしを抑えつけて

赤ちゃんのお部屋に

びゅー、びゅー……って。

んっ♡

んっ♡

st...st...st...st

は...は...は...

は...は...は...

いったいぜんたい、どれだけ我慢したら
あんなに射精できるんですか？

ついには失神してしまったわたしを
それでも、リーダーは
犯し続けていました....。

アークスシップを歩いているときも
男のひとたちにえっちな視線を
送られていたけれど....。

もしかして、みなさん同じ...なんですか？

ど、どうしよう...。
みなさんの性欲を満たそうとしたら、
わたし...壊れちゃうかも。

ゴキッ
ゴキッ
ゴキッ

グッ
グッ
グッ

ANETTE

男ってどうしてあんなにイヤらしいのかしら。

つい先日のことだけど…、彼、土下座して

「セックスさせてくれ」って言うの。

じろじろ見るんじゃないわよ！
これでも恥かしいんだから

ほ
ちゅ

しん
く
う
い
い

ちやんとオナニー
くらいいしなさいよっ
溜めすぎは
良くないんだから…

あ…
♡♡

ド
ピ♡

さすがに…土下座するほどしたいなら、まあ、仕方の無いことかしら…って、部屋へついて行って相手をしてあげたわ。

う、うるさいわね！
初めてよ！
い、いい、いいでしょ、そんなことどうでも！

と、ともかく…彼がして欲しいということを…せ、全部させてあげたわ。

んあぁぁ

ええ、そうよ。
たしかに好きにさせてあげたわ。
け、けど…。

嘘でしょ！誰が中に
射精していいって言ったのよっ

好きにしていいいと言ったけど、
あんな…こ、こい、恋人同士の
セックスみたいに

キスしながら、本気で
中出しするどほ

さすがの私も想定外だった…わね。

こ、こい…
腰押し付けて
射精するなあつ！

とっぴや♡

とっぴや♡

…え？
イ、イったりなんかしてないわよっ！
バカじゃないのっ！
ホント…なんだから。

とっぴや♡

とっぴや♡

とっぴや♡

とっぴや♡

もう…信じられない

こういうのは恋人相手に
しないさいよ！バカ！

彼が満足して、ようやく私を解放して
くれたのは

もう、目が昇った頃だったわ。

まったく、どれだけセックスに
飢えていたのかしらね。

…中に射精する度、「好き」って
連呼しなくてもいいじゃない。

この私が本気になったら
責任、とってくれるのかしら…。

ホントに、まったくもう。

別に…イヤでは
ないわよ…
え？もう1回？
もう…仕様が
ないひとね

は

は

は

は

は





2017 サークル勇者乾電池

<http://yusyakandenti.wixsite.com/yusyakandenti>